

広報

# ゆざわ

わたしたちのねがい

湯沢町民憲章

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢  
清らかな愛情あふれるまち  
すこやかな活力みなぎるまち  
さわやかな誰もが訪れたいまち  
みんなで力をあわせ  
豊かで明るく住みよい  
文化の香り高いまちをつくろう

あけまして  
おめでとーいーげーいーます  
新春を迎え  
皆様のご多幸を  
お祈り申し上げます  
平成十七年元旦



「かがみ」は光の反射を利用して、姿や形を映して見る道具。語源としては、光の赫（かが）やきを見る「赫見（かがみ）」の意、あるいはものの面影を見る「影見」の転とする説があります。

青銅など金属製のががみ（鏡・鑑）は、中国から渡来したもの。  
「鏡」は竟（きやう）のもの（姿形）を映す金属器を指し、古くは金属

の「監水（かんすい）の入った盤（ばん）」をのぞく「鑑」が使われました。ガラスを用いた鏡がヨーロッパで普及したのは、17世紀以後のことです。

日本では古代から「鏡は神の正体」として神社の御神体とされ、神聖な祭具となってきました。

「知恵の鏡」は知恵のすぐれたことを鏡に例えた表現。また、「昔は今の鏡」といえば、歴史上の出来事が、現代でもお手本となる意味に用いられます。

鏡のように円い大小の餅を重ねた「鏡餅」は、新年用の「お供え」。江戸時代から正月20日（のち11日）には、鏡餅を割って雑煮（ぞうじ）やしるこにして食べました。これを「鏡開き」と言い、この風習は、今も行われているところが多くあります。

神様が宿るとされているお餅をいただく「鏡開き」は、1年の家族の健康と繁栄を祈っていたできます。このお供えのお餅をいただくことにこそ、意味があるそうなので、ぜひとも家族そろって「鏡開き」をしましょう。

# 新年のごあいさつ

## 湯沢町長 村山 隆征

明けましておめでとござ

います。町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。昨年は、台風・水害・地震が新潟県地方を中心に、全国各地に大きな災害をもたらしました。被災地の一日も早い生活再建と復興をお祈り申し上げます。

日本経済は、バブル崩壊後低迷が続いておりますが、政府においては、早期にデフレから脱却して、内需の拡大に向けて地域再生を念願すると

ころであります。

こつした長い不況から観光客は減少傾向で、特にスキー客の減少が続いています。観光湯沢の魅力発信し、観光産業の活性化に向けて関係者が一体となって進めていくことが重要であります。

国は、21世紀にふさわしい国民が将来を安心できる確固とした経済社会を構築するため、金融の安定改革、税制改革、地方行政改革、社会保障制度改革など早期に推進し、経済

社会の活力を高める諸施策の実現を強く望むものであります。

一方、地方自治体の自立に向けての地方分権の確立も、三位一体の改革が進展せず、むしろ地方負担増を強いられ、多くの

課題が先送りされ、遺憾に思われます。21世紀の新しい地方制度の確立こそが真の自治の姿であり、急務であります。

我が国は、こうした現状から国、県、市町村を問わず、かつてない厳しい財政難に直面し、大きな転換期を迎えています。

当町の財政事情も町税収入の大幅な減収など、これまでにない苦しい状況にあります。思い切った行財政改革を進め、事務事業の徹底見直し等スリム化を図り、経費の節減に努め、お互いに痛みを共有しながら、新たな行政サービスに努力してまいりる所存であります。

また、本年は、町制施行50周年を迎える大きな節目にあたります。自立に向けた新たな町づくりを目指し、町民総参加による観光立町宣言や各種記念事業を展開実施してまいりたいと思っております。

昨年の中学生海外派遣事業は、初めての試みでありましたが、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレイク郡マグナに教育

交流として、湯沢中学生14名を短期ホームステイに派遣し、異文化を理解し交流を深めるなど、大きな成果を得てまいりました。これからは、マグナの皆さんからも湯沢町に来ていただき、当面、教育交流を続けながら、姉妹都市提携に結びつきたいと考えています。

国際協調が深まる中、本年は35年ぶりに、日本がときめく世界120以上の国がつくる万博「愛・地球博」が、愛知県で3月25日開幕されます。国は観光立国を目指し、日本の魅力、地域の魅力が世界に向けて発信されます。多くの外国の皆さんの来日が期待されます。

昨年は、中越地震の影響により、宿泊客の激減など当町も観光関連業種を中心に間接的に大きな経済被害を受けました。その対応策として、官民一体となった湯沢町経済復興対策委員会を設置し、元氣

だ・越後湯沢」を掲げ、回復に向けて誘客活動に取り組んでいます。

さて近年、凶悪犯罪事件が後を絶たず続いている現状は大変憂慮いたします。大きな社会問題であります。地域の問題として、安心・安全に向けて皆さんで考え、一層の連帯感を深め、防犯意識を高め、協力し合って行くことが大事と考えます。

急速な少子高齢化が進展するなど、自治体を取り巻く環境は一段と厳しい状況にありますが、住民と行政が一体となって協働し、誰もが訪れたくなる元氣ある町づくりを目指し、進めてまいりたいと思っております。

町民皆様のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。とともに、よい年になりますようお祈りいたしまして、新年のあいさつといたします。



「マグナのひとたちと」

# 年頭の「ごあいさつ」

## 湯沢町議会議長 高野 榮司

### 榮司

日本選手の予想を上回る活躍がありました。日本人が国際舞台でもプレッシャーに負けない技量と精神力を持っていることを多



中学生海外派遣事業「

皆様、新年明けましておめでとございます。新しい年を迎えるにあたり、湯沢町議会を代表し一言「ごあいさつ」を申し上げます。

昨年10月23日に発生した中越大地震により被災された皆さん、そして今も避難先や仮設住宅での生活を余儀なくされている方々に、改めてお見舞い申し上げますとともに、一日も早い生活再建と地域振興を願うものであります。

昨年は中越大地震をはじめ



7・13水害、夏の猛暑、相次ぐ台風の来襲など自然災害が例年になく多発した年でした。災害による直接的な被害は甚大なものですが、更に大変なことは、こうした災害が観光産業を基盤とした湯沢町に直接間接の大きなダメージを与えたことです。景気の回復と安定はもちろんのこと、自然界の安定があつてこそその観光であり、湯沢町であることを再認識したところです。

もちろん、明るい話題もありました。夏に開催されたアテネオリンピックは、世界の全ての国と地域が一つになって熱い感動を与えてくれました。ここでは、水泳の北島選手の「チヨー気持ちいい」という言葉に代表される、

部門で示してくれたものです。町内では、7月に地域活性化施設「体験工房大源太」がオープンし、賑わいを見せています。今後も地域の活性化と観光施設としての活用が期待されると思います。

8月23日には県道の東橋が事業開始以来6年の歳月を経て完成し、ライフラインの整備が大きく進みました。また、湯沢に懐かしいボンネットバスがお目見えしましたし、湯沢中学校生徒のアメリカ合衆国ユタ州ソルトレイク郡マゲナへの海外派遣事業では、14名が参加し、参加した全員が大変な感激を持って帰国しており、大成功でありました。

さて、新しい年を展望するにあたり、湯沢町の財政状況について一言触れなければなりません。ご承知のように長引く経済不況の中、湯沢町では税収の大幅な減少が続き、

行政需要額を賄うことが困難になってきました。現状は、基金という言葉は蓄えを取崩して歳出に充てているところですが、この1、2年でそれすら不可能となります。そうすると、自主財源が豊富なため、地方交付税の未交付団体でありながら会計収支上赤字団体になってしまつたという前代未聞の事態に陥つてしまっています。

このことは、町民生活に直接影響することはもちろんのこと、湯沢町そのものがどうなつてしまつのかという大変重要な問題であります。こうした状況の中、町執行部では、財政健全化対策を策定しあらゆる事務事業の見直しを行うなど、行政のスリム化に向け着手しています。町議会でも、抜本的な行財政改革を図っていくために、何ぞどのような手法により行うべきか活発な議論と提言が行わ

れているところです。いずれにせよ、今後は町の存続をかけた問題として、このことが全町民に提起されていることをご承知おき願いたいと思います。

暗い話が続きましたが、こうした時こそ町民の知恵と力を結集して乗切ることが大切だと思います。今年には町制施行50周年の年であります。今後の湯沢町の発展につながる記念事業等を行い、半世紀の節目をお祝いしたいと思つています。また、秋には町長選挙が予定されています。これから正念場を向える町政の舵取り役として、それにふさわしい人を選ぶ重要な選挙となります。最後にになりましたが、これからも皆様の力強いご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新春のごあいさつといたします。

昨年、10月23日に発生した「新潟県中越大地震」。多くの人の命や住む家や働く場が失われるなど、地域全体が大きな被害を受けました。

この大震災とよく比較されるのが、平成7年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」です。食べ物もなく、不安のどん底にいた被災者の多くがボランティアによる炊き出しに助けられました。そこで活躍したのが、「おむすび」です。

阪神・淡路大震災での体験をきっかけに、「ごはんを食べよう国民運動」が始まりました。運動を進める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」（平成11年設立）では、お米の重要性やボランティアの善意を忘れないために、平成12年、大震災発生日の1月17日を「おむすびの日」と決めました。「おむすびの日」には、「ごはんのおむすび」だけでなく、人と人との心を結ぶ「おむすび」の意味も込められています。

＊ ＊ ＊  
ところで皆さんは、1週間にくいつぐらいおむすびを食えますか。

平成15年末から16年2月にかけて行われた「第4回おむすびの日記念アンケート」によると、男性は4、2個、女性が3、6個。地域別では1位が香川県（4、53個）、2位が愛媛県（4、41個）、3位が徳島県（4、39個）と、上位3位までを四国地方が占めました。

一方、具の好みはどうでしょう。男女とも1位が「鮭」、2位が「明太子」、3位が「梅」。特に「鮭」の人氣は高く、全体の25%を占めています。年齢別にみると、「ツナ」が10歳代・20歳代でそれぞれ1位・3位と人気でしたが、40歳代以上では7位以下となっており、年代で好みがはっきりと分かれています。

最近はおむすびの専門店も登場し、店頭にはバラエティに富んだおむすびが並んでいます。同協議会のホームページにも、全国の様々なおむすびが紹介されています。いずれも、ふるさとの食材を生かした個性あふれるおむすびばかり。一度味わってみてはいかがですか。

# 今年は酉年<sup>とりにどし</sup>

平成17年は酉年です。十二支の動物の中で、唯一の鳥類です。

干支の「酉」は、「ニワトリ」のこと。単に鳥というニワトリ（鶏）を思い浮かべる人も多いように、ニワトリは人間と最もなじみの深い鳥といえます。

ニワトリ（鶏）に関することわざや慣用句は、あまり聞きません。

「鶏口となるも午後となるなかれ」は、鶏を小さな組織、午を大きな組織にたとえて、大きな組織の属員になるよりは、小さな組織でもその頭となることのほうがよい、の意味。小さくとも勇ましい鶏の姿が思い浮かびます。

一方、「鳥」に関することわざ、慣用句は、いくつもありそうです。

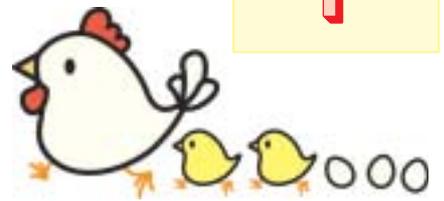
「籠の鳥」は、籠に入れられた鳥は飛ぶに飛べないところから、自由を奪われていること。または、そのような境遇にある人。

「空飛ぶ鳥も落とす（飛ぶ鳥を落とす）」は、空を飛んでいる鳥も落とすほどの威力があるさまのたとえ。

打ち落とされる鳥といえは「一石二鳥」。一つの右を投げて二羽の鳥を同時に打ち落とす意から、一つの行為によって同時に二つの利益を得ることの意味。

「閉古鳥が鳴く」は、貧しくてびいびいしているさま。また、商売などがはやらないさまをいいます。閉古鳥を追い払い、今年こそ本格的な景気回復でたくさんのご利益を、といきたいものです。

ニワトリといえば卵です。卵そのものを調理したものや、パンや菓子など卵を原材料として用いている食品を含めれば、卵が私たちの食卓を飾らない日はないといってもいいでしょう。



その卵を、日本人は1年間にどのくらい食べているのかご存じですか。過去の世界統計などによると、日本人は一人当たり年間300個以上消費しており、これは世界でもトップクラスです。ニワトリにはずいぶんお世話になっているわけですね。

「鶏鳴」という言葉があるように、ニワトリの鳴くころといえは明け方近く。朝を迎えるための合図でもあったニワトリの鳴き声を聞く機会は、昔に比べて少なくなつたといえます。鳴き声どころか最近では、その姿を見かけることも少なくなりました。昔は農家の庭先などで飼われていて、文字どおり「ニワトリ」でした。現在は鶏舎などで飼われることが多いため、身近に触れる機会も少なくなつてしまいました。

昨年は、鳥インフルエンザによる感染が問題となり、養鶏農家や私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしました。今年はそのような問題が起きないよう祈りたいものです。ともあれ、よい年でありますように。